

発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	令和7年 5月30日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 生理に対する理解を深める取組について

- (1) 生理の貧困はコロナ禍で顕在化した問題だが、それ以前からの女性の雇用等の経済的側面や人権的側面を有する社会構造の問題でもあるのではないかと。女性の健康や尊厳に関わることであり、解決に向けた取組が求められるのではないかと。
- (2) 本市は様々な方法で生理用品の無償提供を行っている。これら本市の取組は、突然の生理で困惑する事態の解消や、生理用品を入手しづらい女性の健康と衛生を守ることに寄与しているが、市長はどのように評価されているか。また、課題などはあるか。
- (3) 今後本市でも、図書館やコミュニティセンターなどの社会教育施設や総合福祉会館、保健所があるウェルシティ市民プラザなどの施設にも無料の生理用品を設置するなど市民の声に応えていく必要があるのではないかと。
- (4) 庁内各部局が連携すれば現在よりも設置施設を拡充することができるようではないかと。
- (5) 生理への正確な情報と基本的な理解を深めるためにも、市民の方々や職員を対象にした研修・セミナー等を開催する意義は

大きいのではないか。

2 人口減少と魅力あるまちづくりについて

- (1) 今年5月22日に政府は「地方創生2.0基本構想」の骨子案を発表した。市長は、国が進めていく新たな地方創生の取組にどのような期待をお持ちか。注目する施策や目標などを伺う。
- (2) 令和6年度は、30代と40代の転出入の差が縮小したが、今後、どのような推移を予測しているか。
- (3) これから横須賀中央駅前や追浜駅前など、新たなまちづくりを進めるに当たり、本市の人口動向や特質性、地域事情を考慮することが求められるのではないか。